

多田謡子

反権力人権基金

News

No. 1 2007/07/10

発行・多田謡子反権力人権基金運営委員会

<http://tadayoko.net>

多くの方々からの暖かいはげましに感謝しながら

多田基金は再出発します

12月15日に第19回受賞発表会を開催へ

多田謡子反権力人権基金は、1986年、29才で夭折した故多田謡子弁護士の遺産を元に設立されました。1989年以来、毎年12月に、国家権力をはじめとした権力に対して闘い、人権擁護に尽くした3つの団体または個人に、多田謡子反権力人権賞を受賞していただき、正賞として多田の著作「私の敵が見えてきた」、副賞として30万円の賞金を贈呈するとともに、受賞発表会で受賞者の活動を報告していただけてきました。これまで受賞していただいた、計54団体・個人(3面参照)は、いずれも大変な困難のなかで闘い続けてきた人々ばかりであり、受賞者のリストが、なによりもよく、多田基金の性格をあらわしています。

資金の枯渇、声援を受けて再出発

ご両親から寄託された多田の死亡保険金にカンパを加える形で出発した多田基金は、資金の枯渇から、ここ数年間、賞金を10万円に減額するかたちで運営してきましたが、資金がほぼ尽きたため、昨年末の第18回受賞式で、運営を休止する方向であると報告したところ、参加していただいた皆さんや過去の受賞者から、「やめるな」「続けよう」という暖かな励ましを多数頂戴しました。それを受けて3月に継続のための相談会を開催し、広く募金を呼びかけるかたちで、再出発することを決定しました。幸いにも、すでに非常に高

額の寄付を複数いただいたほか、カンパのお申し出もおうけしています。

憲法改悪への流れ、権力的な国家、権力的な社会への流れが加速している中で、一方では、権力にあらがい、人権と自由を求め続ける多くの人々が闘いを継続しています。多田基金に対して、貴重なご寄付の申し出が続くこと自体が、人々の中に、権力的な社会と闘い続けたいという意志が深く広く存在することの証だと思えます。人々の声援を受けて、多田基金は今後とも微力ながら頑張っていきます。

12月15日に19回受賞発表会

本年秋に第19回受賞者を決定し、12月15日には受賞発表会を開催します。本年も多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

受賞者の推薦と基金継続のためのカンパへのご協力も呼びかけています。

当基金への変わらぬご支援をお願いいたします。

(いずれも詳細4面)



多田基金は基金継続のためのカンパを呼びかけています。

第18回受賞発表会



2006年12月15日 総評会館（東京・お茶の水）

石川一雄さん



夫人とともに演壇に立った石川さんは、「獄中で無実を確信してくれた看守から、差別で奪われていた字を習って以来、40年以上無実を訴えてきた。請求中の第三次再審で必ず狭山事件のえん罪を晴らして受賞にこたえたい」と述べました。

根津公子さん



「1994年に勤めていた中学校で、一方的な日の丸掲揚に抗議して処分されて以来、処分と闘い続けてきた。現在、停職中で、今後解雇の可能性もあるが、闘いに踏み出すことで見えてきた真実を大切に、君が代斉唱時に起立しないという態度を貫いていきたい」と述べました。

第18回受賞発表会には80名以上の皆さんにお集まりいただきました。授賞式では、多田謡子のプロフィール紹介、推薦された候補者の紹介と受賞者選定理由の発表などが行われたあと、受賞された石川一雄さん、根津公子さん、救援連絡センターの山中幸男事務局長より闘いの報告を受けました。それぞれの受賞者に、正賞として多田の著作「私の敵が見えてきた」、副賞として10万円が贈られました。

発表会が終了した後、同じ場所で開かれたパーティでは、例年どおり、参加者一人一人から感想やご意見をいただきました。過去に受賞していただいた方をはじめ、多くの参加者から、基金の活動を続けるべきだとのご意見や激励のお言葉ががあり、運営委員会として継続を検討することになりました。

救援連絡センター

山中幸夫事務局長は「司法支援センター設置など、反弹圧・救援運動の存在意義まで抹殺するような動向に抗し、死刑事件、えん罪事件の救援、死刑廃止運動や獄中処遇の改善などまで運動の領域を拡大して闘い続ける」と述べました。



これまでの受賞者一覧

第1回(1989)	西村誠氏 知花昌一氏 ガブリエラ	徐君兄弟を救う会事務局長 日の丸焼き捨て「被告人」 フィリピン・女性団体
第2回(1990)	山田悦子氏 小田原紀雄氏 マリヤ・フリヤ・エルナンデス氏	甲山えん罪事件「被告人」 天皇制反対・牧師 エルサルバドル・カトリック人権委員会事務局長
第3回(1991)	大久保製塩労働組合 内海愛子氏 コナビグア	障害者差別と闘う労働組合 韓国・朝鮮人BC級「戦犯」に対する謝罪要求 グアテマラ・女性団体
第4回(1992)	高木仁三郎氏 ウトロを守る会 全国サハラウィ女性連合	原子力資料情報室代表 日本の戦争責任追及と在日朝鮮人の生存権主張 西サハラ解放運動
第5回(1993)	免田栄氏 和田弘子氏 ミッシェル・D・ピエール・ルイ氏	死刑廃止運動 国鉄臨職解雇撤回闘争 ハイチ反弾圧運動
第6回(1994)	徐勝氏 石田吉明氏 アジオ・ペレイラ氏	無実の在日韓国人元政治犯 大阪H I V訴訟原告 東チモール救援団体・E T R設立者
第7回(1995)	国労闘争団全国連絡会 木村亨氏 I C I P P	不当労働行為撤回闘争 横浜事件再審請求人 イスラエル・パレスチナ間平和のためのイスラエル評議会
第8回(1996)	寺下力三郎氏 港町診療所 中国民間対日賠償請求準備会	反原発・元六ヶ所村村長 在日外国人医療 日本の戦争責任追及
第9回(1997)	宋神道氏 新倉祐史氏 ペルー全国人権団体連合会	「在日」の元「慰安婦」被害者 非核市民宣言運動・ヨコスカ ペルー・人権団体
第10回(1998)	韓国の原爆被害者を救援する市民の会 江沢正雄氏 グアテマラ歴史的記憶回復プロジェクト	韓国人被爆者支援 肥大化五輪への批判と提言 グアテマラ人権団体
第11回(1999)	安田好弘氏 カメラのニシダ再建委員会 C O R E	弁護士・死刑廃止運動 労働者の手による会社再建 放射能汚染に反対するカンブリアの人々
第12回(2000)	東芝府中働く者ネットワーク 日の出の森トラスト運動 タイ貧民連合	企業・労働組合による「村八分」への抵抗闘争 自然破壊の強制代執行への抵抗闘争 タイ最大の住民運動ネットワーク
第13回(2001)	V A W W - N E Tジャパン 靖国神社合祀拒否訴訟・韓国人原告団 キャロリン・フランシス氏	天皇の戦争責任や「慰安婦」問題を提起 日本・日本人の過去現在の責任を問う 基地の島沖縄における女性を支える運動
第14回(2002)	鉄建公団訴訟原告団 監獄人権センター I S M (International Solidarity Movement) 国際連帯運動	解雇撤回闘争を闘ってきた国労闘争団員と遺族 刑事拘禁施設の人権状況改善
第15回(2003)	大野萌子氏 辛淑玉氏 ペギー・ギッシュ氏	「精神障害者」差別と闘う全国「精神病」者集団 反差別・反ファシズム闘争 イラク戦争反対・「人間の盾」
第16回(2004)	島田雅美氏 郵政4・28訴訟原告団 Tシャツ訴訟原告団	天皇制、靖国問題との闘い 全通4・28解雇撤回闘争 確定死刑囚の待遇改善
第17回(2005)	ヘリ基地建設反対協議会 ココロ裁判原告団 田中哲朗氏	沖縄・辺野古 君が代強制反対 沖電気闘争被解雇者
第18回(2006)	石川一雄氏 根津公子氏 救援連絡センター	狭山差別裁判「被告人」 「日の丸・君が代」強制反対 反弾圧救援活動

